



# 子育て情報 9月号

平成29年 9月  
椋山女学園大学附属幼稚園

## 子どもを守る 未来を守る

園長 横尾 尚子

9月1日は「防災の日」。自然災害に備えることの大切さを考える日です。1923年(大正12年)の9月1日11時58分に発生した関東大震災の惨禍を忘れないように。また、例年この時期は台風の来襲が多い二百十日に当たることから、「災害への備えを怠らないよう」にとの戒めを込めて、1960年(昭和35年)に制定されました。制定前年の1959年9月26日には、伊勢湾台風が当地名古屋にも甚大な被害を及ぼしたことを、記憶されている方も多いかと思います。

「防災の日」に先んじて、本年8月16日の朝日新聞朝刊の鷺田清一氏のコラム『折々のことば』では、家族社会学者：遠藤恵子氏の次のことばが取り上げられていました。『普段できないことは、災害のような非常時にはなおのことできない』そして鷺田氏は、「災害時の避難生活では、下着やトイレの問題、異様な気配に怯える(おびえる)幼児のケア、性犯罪の増加など、大ぶりの視線からは外れる難事が多々ある。…(後略)」と書き添えています。被災の瞬間からその後の避難生活に至るまで、リアルかつ詳細にイメージされた防災訓練と災害への備えが必要なのです。私達の未来である「子ども」を守る術(すべ)を、大人も子ども自身も、普段から身につけておかなければなりません。

幼稚園や保育園では、地震や火災、不審者といった被害から子ども達を守るために、各種の防災に関する訓練を行なっています。今回はその中から、地震を対象とした防災訓練(地震訓練と略す)のポイントをお話します。ご家庭での適切な災害対応に、少しでもお役に立てれば幸いです。

地震訓練は次のような手順で進めます。

- ①地震発生を知覚したら、机の下か頭を守れる場所へ移動し、両脇に頭を抱え込んでお尻を床につけた「ダンゴムシ」ポーズをとる。
- ②揺れの状況を見て、保育者は窓やドアを全開し、非難経路を確保する。
- ③防災頭巾をかぶる。
- ④上靴または下靴をはく。
- ⑤落ち着いて避難場所へ移動する。移動中は余震にも留意する。

子ども達には、なぜこのような行動をとらなければならないのか、考えて動けるように指導しています。

「机の下のもぐるのはなぜ？」…地震で建物が揺れると、周りにある物が倒れてきたり、落ちてきたりするかもしれません。窓や蛍光灯が割れて、とがったガラスがふってくるかもしれません。硬い机の下にもぐって、大切な身体を守りましょう。

「防災頭巾をかぶるのはなぜ？」…防災頭巾は頭を守るために欠かせません。頭には、考えたり動いたりするためのたくさんの情報が詰まっています。もしその頭に物が落ちたり、ぶつかってケガをしてしまうと、動けなくなってしまうかもしれません。頭をしっかり守りましょう。

「上履きや靴をはいて避難するのはなぜ？」…地震が起きると、床や地面に物が落ちて散乱します。その中に、ガラス等の危険物も含まれているかもしれません。逃げている時に、もしそのガラスを踏んでケガをしてしまったら、自力では逃げられなくなってしまいます。上履きや靴は必ずはいて、足を守りましょう。

そして、避難する時の合言葉は「おかしも」。おさない、かけない、しゃべらない、もどらない。子ども達がちゃんと守って無事に避難できるように、ご家庭でも合言葉として使ってみてください。

防災と言うと、防災グッズの購入がまず頭に浮かびます。その中でも、食料や水の確保が第一かとは思いますが、さまざまな生活用品が工夫され、販売されています。例えば、太陽光で逐電して使えるランタン。暗くなると、特に幼い子ども達は心細くなるものです。そんな時に、一つのランタンを家族で囲めば、どれほど慰められることでしょうか。大切なお子さんを守るために、私達の大切な未来を守るために、日々の防災意識の積み重ねと準備が大事です。そして、忘れてならないのは、大人自身も自分の身を守ること。大人が傷つき、倒れてしまえば、子ども達を守ることはできません。